

黄疸症状を示したブリが漁獲されました

海洋生産技術担当 住友 寿明

Key word; ブリ、ハダムシ、細菌性溶血性黄疸、魚病診断

黄色いブリが獲れた！

令和 6 年 3 月 4 日、阿南市内の漁協で体表が異様に黄色いブリが水揚げされ、翌日、巡回中だった水産指導員を介して診断依頼がありました。

このブリは、尾叉長 608mm、体重 3.85kg、体表の腹側や口唇部が明らかに黄色く（写真 1, 2, 3）、黄疸（おうだん）の様な外観でした。その他の外部症状として、胸鰭、腹鰭、臀鰭の発赤がみられ、体表にハダムシが多数寄生していました。このブリを解剖したところ、筋肉がやや黄色く、肝臓は黄白色を呈していました（写真 4）。



写真 1. 黄疸症状を示したブリ



写真 2. 黄疸症状を示したブリの頭部



写真 3. 黄疸症状を示したブリの腹部

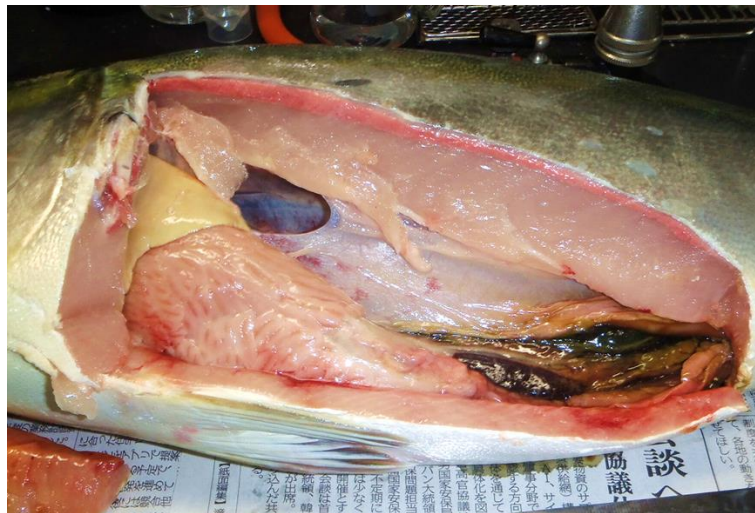


写真 4. 黄疸症状を示したブリの筋肉と内臓

黄疸とは？

このブリは、黄疸特有の外観を呈し、筋肉が黄変していたことから黄疸とみられます。黄疸とは、血液中のビリルビンという色素が増え、皮膚や白目等が黄色くなる状態のことです。ビリルビンは主に赤血球が壊されて処理されるときにできます。

ヒト等の黄疸には、赤血球が病的に破壊されて起こる「溶血性黄疸」、生まれつき肝臓におけるビリルビンの処理に問題のある「体質性黄疸」、ウイルス性肝炎、薬の副作用、アルコール、自己免疫などで肝細胞が壊される「肝細胞性黄疸」、肝臓内の胆汁の流れが悪くなる「肝内胆汁うっ滞」、胆管が結石や腫瘍などでふさがれる「閉塞性黄疸」があります。

ブリの細菌性溶血性黄疸

黄疸は、人間だけでなくブリが発症することもあります。養殖のブリが黄疸症状を示した場合、細菌性溶血性黄疸と考えて間違いないでしょう。

細菌性溶血性黄疸とは、溶血活性が極めて強い長桿菌を原因とする細菌性疾病です。この疾病は高水温期に発生しやすく、1 歳魚以上の大型魚で被害が目立ちます。この疾病が発生すると被害が大きく、へい死しなかった病魚も筋肉中にビリルビンが蓄積し食味が苦

くなり商品価値がなくなります。

この疾病に対する治療法は確立されていませんが、抗菌剤の投与で治療効果が期待できるとのことですので、細菌性溶血性黄疸の治療を目的とした抗菌剤の発売が待たれます。

このブリは細菌性溶血性黄疸か？

このブリは、細菌性溶血性黄疸が発症しにくい低水温期に漁獲されており、細菌性溶血性黄疸の特徴的な症状である脾臓の極端な肥大がなく、ハダムシが多数寄生しており、筋肉が白っぽくよく太っていることから、細菌性溶血性黄疸以外の原因で黄疸を発症した「養殖ブリ」が逃げ出したものと推測されます。

今後も情報収集したいと思います。これまでにない症状の病魚を見つけた場合は、水産研究課までご一報ください。

参考文献

小川和夫,白樫正. ハダムシ症 魚病研究 2017;52(4):186-190.

高野倫一,松山知正. 細菌性溶血性黄疸 魚病研究 2020; 55(2):25-30.

参考 URL

「黄疸」(八戸市健康医療情報ネットワーク)

<http://www.hachinohe.aomori.med.or.jp/simin/daily/daily38.html>, (アクセス日 2024 年 8 月 23 日)

「ゲノムサイエンスを利用したブリの健康維持」(独立行政法人水産総合研究センター第 11 回 成果発表会要旨集)

https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/event/seikahappyo/files/11program_3.pdf, (アクセス日 2024 年 8 月 23 日)